

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「食料安全保障の確立をいかに」
「統一地方選を終え、それぞれの信念に向かう」

4月の統一地方選、県内でも県議会議員選挙をはじめ多くの各級地方議会の選挙が行われました。私は、国会の隙間を縫うように全国各地にお邪魔し、かつて青年部活動を共にした仲間や後輩の元へも駆けつけました。そうした仲間が皆、地域の信頼を勝ち取り選挙戦で勝利したこと、全国各地にこんなことが本心に強いことと。

選挙戦で各地の農家の皆さまと話をしますと、生産資材の高騰が苦しい、地域から若者がいなくなり農地の継承をどうすればいいのか、毎年の鳥獣被害も頭が痛いなど多岐にわたる話題が飛び交いました。なかでも、日本の食料安全保障については相当関心が強まっています。

近年の新型コロナウイルス禍やウクライナ情勢など有事の際、海上輸送の封鎖や輸入資源の停止などが現に行われ、資材・食料価格が急騰し状況が一変しました。日本の食料自給率は38%とされていますが、100%輸入頼みの石油及び輸入に多くを頼る種子や肥料、飼料などが枯渇し、備蓄が十分になれば国民が飢餓に直面するリスクが考えられます。

しかし、現在輸入している農作物すべてを国産で賄うには、今の国内の農地の2倍の面積が必要となります。国産品

だけで、全ての国民の胃袋を満たしていくことは到底できません。

現実的な備蓄、それから増産も考えていかなければなりません。不測の事態においても一定の輸入を確保することは極めて重要となります。今もウクライナあるいはロシアからの小麦がなかなか入りにくい状況ですが、代替国としてカナダから小麦を入れています。

また、肥料の中でも輸入の9割を中国で占めていたリンは、中国が自国向けの生産に踏み切ったため、日本にリンが入らなくなりましたが、その代替国としてアフリカのモロッコから輸入しています。日本との友好国や、輸入にきちんと思えてくれるような国と常日頃から、不測の事態が起きても輸入させてもらえるよう外交的な交渉を続けなければなりません。

もちろん、国内で生産できる資源の活用や循環型農業の推進をしっかりと進めることも重要です。こうした状況を打破すべく持続可能な農業、農村づくりに向け尽力していきます。



▲デジタル田園都市国家構想実現会議に出席

全国・農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

かけがえのない
「故郷と農業とJA」を
大切にします

「地方議会議員選挙で、これまで応援いただいた皆様に恩返しすべく飛び回りました」

東京を早朝一番の新幹線で出かけることが多かったですが、車窓からの景観は見事でした。広々とした関東平野は、雪を抱いた山々を控え、田んぼは緑に覆われており、本当に素晴らしい。小高い丘には、白い桜の花が咲き誇っていました。田んぼには何を植えるのでしょうか、野菜か、稲苗か。日本の農業者の素晴らしい働きです。まさに美しい国土。そして木々は芽を膨らませていました。

こうした景色を見ると、「何が出来るのか、何を主張できるのか。この素晴らしい山々と、青空と、田んぼの力を合わせて、日本の農業をどう元気にするのか」「緑いっぱいの豊かな農業と農村と農業者を、どう元気にするか、頑張らなければならない」と奮い立たされます。

【冒険な富山平野の小麦・稲作・大豆作】
私の地元である富山県では、毎年春になると海と国道との間に、きれいに並んだ畝が作られます。それら畝には大豆が植わっています。広々とした水田には、一面緑の苗が植わって、

風にそよんでいます。随所で野焼きの煙も上がっている。春に向けての準備がなされているのです。美しい景観です。

私の故郷は、石川県境の「倶利伽羅峠」の麓です。源氏の木曾義仲と平家の平維盛が闘い、源氏の義仲が牛の角に松明をつけて襲い掛かり、平家軍を深い谷に追い落として源氏が勝利し、平家から源氏へ政権が代わったきつかけをつくた地です。

そこにある植生八幡宮は、義仲が戦勝祈願をした八幡宮です。峠には倶利伽羅不動寺があり、その谷は今も「地獄谷」と呼ばれて恐れられています。地域の皆で、植生八幡宮と倶利伽羅不動寺を大切にしているのです。このことを胸に刻み、家族を、地域を、仲間を守り、日本を支える、その誇りをもって、私も頑張ります。



▲国会議事堂前に富山の無花粉スギを植栽